

会 議 録

1 会議名

令和4年度 第9回金谷区地域協議会

2 報告（公開・非公開の別）

（1）諮問事項 新市建設計画の変更について（通知）（公開）

3 議題（公開・非公開の別）

（1）地域活性化の方向性について（公開）

4 開催日時

令和4年11月22日（火） 午後6時から午後7時5分まで

5 開催場所

福祉交流プラザ 第1会議室

6 傍聴人の数

0人

7 非公開の理由

—

8 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：石川美恵子、大瀧幸治、川住健作（副会長）、神崎 淑、
高橋敏光、高橋 誠、高宮宏一、長 和子、土屋博幸、平良木美佐江、
益田侑季、村田敏昭（会長）、山井広子（副会長）（欠席2人）
- ・ 事務局：南部まちづくりセンター 滝澤センター長、小池係長、難波主任

9 発言の内容

【難波主任】

- ・ 加藤委員、小林委員、長委員を除く13人の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。
- ・ 同条例第8条第1項の規定により、議長は会長が務めることを報告。

【村田会長】

- ・ 会議の開会を宣言

- ・ 会議録の確認：高橋 誠委員と高宮委員に依頼
次第2「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【滝澤センター長】

- ・ 配布資料の確認
- ・ 次第に基づき、議題の確認

【村田会長】

- ・ 「議題等の確認」について質疑等を求めるがなし。

— 次第3 報告（1）諮問事項 新市建設計画の変更について（通知） —

【村田会長】

次に次第3 報告（1）「諮問事項 新市建設計画の変更について（通知）」に入る。
事務局より説明を求める。

【難波主任】

- ・ 当日配布資料No.1により説明

【村田会長】

- ・ 事務局の説明に質疑を求めるがなし。

以上で次第3 報告（1）「諮問事項 新市建設計画の変更について（通知）」を終了する。

— 次第4 議題（1）地域活性化の方向性について —

【村田会長】

次に次第4 議題（1）「地域活性化の方向性について」に入る。

前回の会議では、市から今年度中に作成着手を依頼されている「地域活性化の方向性」について、事務局から説明を受け、各委員から記入シートを提出いただいた。

事務局から説明を求める。

【難波主任】

・資料No.1により説明

【村田会長】

次に、資料No.1に意見が記載されている委員から補足を含めて説明を求めたいと思う。

なお、補足などが無い場合は、「補足なし」で構わない。

1番の意見について、事務局より説明願う。

【難波主任】

1番は、本日欠席されている加藤委員の意見である。

地域活性化の方向性のアイデアである。

「金谷区の地域活性化に向けて、金谷区の『豊かな自然と豊富な雪』という個性をいかして、『金谷山を地域の人や訪れる人の憩いの場とし』ます。」

構成要素としては四つある。

一つ目は「スキー発祥の地としての金谷山スキー場の発信」、二つ目は「金谷山各種のイベントに伴う、雪回廊等の企画と実施」、三つ目は「金谷山周辺の美しい自然をいかしたイベント企画」、四つ目は「金谷山を整備し、憩いの地としての企画と推進」ということで、いずれも「金谷山」というキーワードを軸にしたものとなっている。

【村田会長】

次に、2番の意見について説明願う。

【川住副会長】

「金谷山」については、私を含めて9人の委員から意見が出ている。

私の意見は、金谷山の「広大なエリアと歴史」という個性をいかして、「元気な地域づくりを目指します。」とした。

構成要素として、一つ目は交通の利便性である。

新幹線を始め、上越高田インターチェンジや山麓線もある。

通ってもらうと分かるが、冬期間、山麓線は除雪が良い。山麓線が一番良いのではないかと思う。そういったこともあり、金谷区を中心に山麓線が通っているかたちになっている。

二つ目は、商業的にも山麓線沿いの店舗はかなり繁盛しているというか、結果的に良いものがあるのではなかろうかと思う。

三つ目は、「歴史と文化」として、金谷山には多くの歴史と文化があるため、それを宣伝してはどうかと思った。

四つ目は、公民館ができるということ。そして、ヨーデル金谷等の施設があるため、これらを利用して、活性化を図ってはどうかと思った。

五つ目は、キャンプ場である。南葉キャンプ場、平山キャンプ場を活かすイベントができれば、金谷区発展につながるのではないかと思い、提案した。

【村田会長】

3番の意見について説明願う。

【神崎委員】

金谷区は、自然がある地域もあり、都会のような地域もある。交通もすごく便が良いところであるため、その辺りを活かしてはどうかと思った。

また特別に、「観光」など、何か新しいことを始めるのではなく、既に拠点がたくさんあり、活動している団体もすごくたくさんあるため、団体同士がつながって何かをやっていけば良いと思った。「やっていく」というと曖昧であり、観光だけではなく、耳触りの良い言葉になってしまうが、「住みよいまちづくり」をしていった先に、観光や活性化などがあるのではないかと思う。

【村田会長】

4番の意見について、事務局より説明願う。

【難波主任】

4番は、本日欠席されている小林委員の意見である。

金谷区の「シンボルともいえる金谷山と、地域全体の豊かな自然」という個性をいかして、「交流人口を増やし、人・アイデア・活動が『つながっていく』地域を目指し」ます、というものである。

構成要素としては四つある。資料No.1記載のとおりである。

一つ目は「山麓線沿いに道の駅を整備する」、二つ目は「まずは、金谷山公園・BMX場・ヨーデル金谷付近で、足を止めさせることが最大のポイント」、三つ目は

「農家産直市場併設」、四つ目は「ヨーデル金谷の売上アップへ」として、五つのアイデアが記載されている。

【村田会長】

5番の意見について説明願う。

【高橋敏光委員】

私の意見は、「金谷山中心とした歴史文化」という個性をいかして、「観光・集客を推進し」ます、ということである。

構成要素の一つ目としては、「金谷山を中心に名所旧跡がたくさん存在する。これを活用することで地域活性化につながる」と思っている。

二つ目は、「上越市が通年観光を目指しており、ぜひ、クラフトビール工房建設を実現したい」と思っている。

三つ目は、前にも説明したが、「ヨーデル金谷とクラフトビール工房が連携強化を図り運営すれば成功する」と思う。「隣地に金谷地区公民館もできる」ため、これができるれば、ますます金谷地区も発展すると思っている。

四つ目は、「青年会議所が麦の生産を試みているので、ぜひ連携してできないか」と思っているが、知人がいないため直接話を聞くことはできない。しかし、できることであれば、連携してほしいと考えている。

五つ目に、金谷地区の力だけでは、この大きなプロジェクトは無理なので、ぜひとも上越市の応援が欲しいと思っている。何とか、これが実現すれば、金谷地区全体を活性化できると思っている。

地区公民館ができれば、地元で生産した野菜や米、山菜等も販売できるようになると思うので、地域協議会委員からも力を貸していただきたいと思っている。

【村田会長】

次に、6番の意見について説明願う。

【高橋 誠委員】

私の意見は、記載内容を見てもらえば分かると思うが、少し補足する。

金谷地区では、金谷山公園はもちろん、紫陽花ロードや滝寺の整備を通年で行って、観光ルートの一環にしてはどうかと考えている。

寺町の通年観光というプロジェクトが発進しているものの、なかなか難しいようであるが、通年観光の中にこの金谷区も少し入れてもらえるような考え方をすれば、何かうまくいくような気がしている。

構成要素の三番目に記載している「災害に強い地域」については、皆、御存知のように、この金谷区は、まさに活断層の上に位置している状態である。いつ起きてもおかしくない災害に対して、やはり日頃の心の準備、あるいは物資上の準備を強化してはどうかと思っている。

次に、五番目の「地域の宝」については、これは言葉でいうことは非常に簡単であるが、「地域の宝の発掘」、そして「子供たちを含めて」という考え方で、個人の考えとしては、地域にある湧水、あるいは井戸などを把握して、緊急時などにそのような豊かな水が何らかの役に立てば良いと思っている。

【村田会長】

次に、7番の意見について説明願う。

【長委員】

「個性」というと、ぼんやりとしたものしか思い浮かばなかったため記入しなかったが、他の委員も発言していたように、アクセスの良さや自然環境など、今あるものをつなぎ合わせる事ができれば良いと思い、この構成要素を考えてみた。

構成要素の3番についても、ぼんやりと思い浮かんだ。

以前の会議の時、空き家や農地が空いている、という話があったため、それをどうにか使って、そこから市場、道の駅化したときに何かにつながれば良いと思い、記入した。

【村田会長】

次に8番の意見について説明願う。

【土屋委員】

特に補足はないが、鍵になるのは「地域活性化の方向性」ということであったため、どうしたら人を呼び込むことができるのか、ということのを土台にしながら、出した構成要素である。

テーマとしては「歴史と自然」としているが、私も構成要素の三番目に「道の駅

化」と記載している。他の道の駅がどうなっているのかということで、最近できた田上町と阿賀野市の道の駅を見に行ってきた。

どこもだいたい同じような建物のようなかたちにはなっているが、確実に言えることは、やはりアクセスがしっかりしていなければ、車が集まってこない。

想像以上に、阿賀野も田上も人がたくさん来ていた。

それを意見にも記載しているように、ヨーデル金谷もそうだが、新しい公民館ができるということでもあるので、何かをきっかけにしながら、そういうものができていけば良いと思った。

どこの道の駅もそうだが、その町の物産的な内容が並んでいる。阿賀野もそうであった。

要するに、レストランのような感じの店もあったりした。

実際、田上町においては、田上町役場の前に道の駅がある。あのような道の駅は初めて見たが、やはりアイデア次第で、人を集めようと思えば集まってくるのだと感じた。

あと、滝寺不動とかこういうものは歴史を振り返りながら、上越には上杉謙信公という人がいたので、もう少し上杉謙信公を前面に出しながら、岐阜の信長ではないが、そういう感じで、もう少し何かアピールができないかと思った。

【村田会長】

次に、9番の意見について説明願う。

【益田委員】

提出が遅くなり、また内容が公民館を中心として記入したということがあるが、新しく公民館ができるということは、非常に大きなことだと思っている。そして、そこに地域の人たちが多く集まれるようなかたちを取っていくということも大事ではないかと思っている。

その外から来る人は金谷山に行くなど、いろいろなかたちで遊ぶことができると思うが、やはり、地域の人たちがつながっていなければ、災害など何か起きた時も、「近所の人分からない」ということもあると思う。

いろいろな人が公民館を使用できるような仕組みを作ったほうが良いのかと思

っている。

うまく説明はできないが、例えば、昼間に乳幼児、親子で集まる場所、それほどこの公民館でもしていると思うが、そのような場所をまず一つは作っておくこと。

あと、今は若い人たちが立ち寄る場所があまりないというか、あまり図書館で勉強もできないので、学校が終わった後に、昼からでも公民館に寄って少し勉強ができるような場所も、入れ替わりであって良いのかと思っている。

また、休日などは、せっかくヨーデル金谷もあるので、そこで産直市場をやりながら、いろいろな人が立ち寄り、そして食事もできるようなかたちでうまく回っていけば良いと考えた。

【村田会長】

次に、10番の意見について説明願う。

【石川委員】

「豊かな自然と、山麓線沿いの利便性」ということを書いた。

何となく漠然としたものを取り上げたが、ずいぶん前に東京からマスコミ関係の方が一週間くらい滞在したことがあった。その時に彼らが言ったことが私はとても気になった。「こういう村に東京の若者を連れて来たい」、理由は「生きる力を付けさせてあげたい」と言っていた。「生きる力を持たない若者がものすごくたくさんいる」と言っていた。これは20年も前の話である。

今、私は金谷地区やこの周辺で、若者の状態というものが分からない。分からないが、やはり今、大変な時代であり、大変な思いをしている若い人たちがいるのではないかと思う。そういう人たちに大げさかもしれないが、「生きる力」を付けさせてあげられるようなことができるかと思う。それには、今、中山間地はもう本当に、大変荒れている状態であり、人もどんどん減っている。町場もそうかもしれない。どこから通っても良いが、やることが山ほどあるので、ぜひそういうところに若者から入ってもらい、それをまた活用して元気のもとになれば良いと思った。

全部のイメージがあるわけではないが、そういうことができれば良いと思っているので、市が力を入れていただければ、何となくできるのではないかとの思いで記

入した。

【村田会長】

次に、11番の意見について説明願う。

【大瀧委員】

個々の細かいことは、他の委員が記入したような内容で、金谷地区を活性化したいと思い記入した。それよりも金谷地区は非常に広く、細長い地域であるため、いろいろな行事があっても「あっちの人たちの行事だから、自分たちは関係ない」というような気持ちがある。金谷地区全体が一体化して、行事などを行うには、まだまだ昔の町村の名残があるような気がするので、いろいろな行事を計画した場合には、構成要素の一つ目にあるように、金谷地区としての一体化、そのためには、大変に広いので、構成要素の二つ目にある、交通の便を考えないといけない。

次に三つ目。大人にだけ「一体化」というより、子供のときから「自分たちは金谷地区」といって、妙高市に近いほうから、旧春日村に近い地区まで大変広い場合には、昔からのいろいろな行事としては、「自分たちには関係ない」と思われているような感じがする。実際に、いろんな行事に北の人が南の行事に参加しようとしても、なんとなく、よその人間が来たように思われる。金谷地区は広いため、そういう傾向があり、私も何度も経験している。

まず大事な事は、一体化して、妙高市に近い人も、春日山に近い人も、金谷地区の人間なのだという、「一体感」を持ってもらいたい。

それには、小さな子供のときから、小学校が三つあるが、「よその学校」「よその行事」だと考えずに、「金谷地区の行事」、「金谷地区の何々」だという意識が持てるようにしてもらいたいと思っている。

【村田会長】

次に、12番の意見について説明願う。

【高宮委員】

他の委員が説明したとおりであり、資料に記載しているとおりである。

「豊かな自然・地域の宝」という個性をいかして「若者・子供たちが安心して暮らせるまちづくりを目指す」とした。

地域協議会にも、以前いろいろあったと思うが「金谷区地域協議会」という組織を生かしながら、金谷地区にはいろいろな団体がある。その方々ともっと、いろいろな会議を持ち、各々の行事を盛り上げていくことが大切ではないかと思い、記入した。

【村田会長】

次に、13番の意見について説明願う。

【平良木委員】

私は、「金谷区の良さ」というのは、「豊かな自然」があり、しかもそれが「身近なところにある」ということだと思う。さらに、それを活かすような活動も、方々で行われている。

それを生かして「活力と魅力あふれる地域づくり」ということである。

外部から人を呼ぶことも大事であるが、それよりも私がイメージしているのは「活動を通して地域みんなが元気になる」ということや、「それを地域の皆が楽しみ合う」といったことをイメージしている。

次に、構成要素についてだが、「構成要素」という概念が、非常に広い言葉だと思う。私は、これを「具体的方策」という視点から五つ挙げてみた。まずは、今ある活動や施設を充実、発展させ、さらにそこに新しいものを加えていくようなことである。

そして、それぞれがバラバラでなく有機的に関わって、相乗効果が生まれると良いという考えのもとに五つあげた。

【村田会長】

次に、14番の意見は、私が記入した。

私は、いただいた多くの意見をもって、金谷区の地域活性化に結びつけていきたいと思っており、個人的な意見は二の次というような考えでいたため、このような抽象的な言葉で対応した。

「金谷区の人・組織・地域の3本の矢」という個性をいかして、「働きやすい・住みやすい・魅力的な『地域』を活性化していく」とのキャッチフレーズのもとに、「一人一人が地域活性化の担い手」という意識をつけ、抽象的な構成要素として対

応した。

本日いただいた意見をさらに深めて、地域協議会、地域にある各種団体などの知恵や意見もいただいて、総合的な地域活性化に向けていかなければいけないと思っている。

最後に、15番の意見について説明願う。

【山井副会長】

「金谷区の『豊かな自然』という個性をいかし、『人間を大事にし』ます。」

意見として記入したとおり、活性化はなんといっても人と人とのつながりが重要だと思う。いろいろな活動をするにも人が動くことが大切である。人が集まることは良いが、私はどうしても裏方のことを考えてしまう。

裏方で動いた時に、やはり「やってよかった」「これから、もっとやろう」というような気を出すというか、そういったことが重要であろうと考えた。

【村田会長】

15件の意見について、それぞれ補足説明をしていただいた。

これまでの説明に質疑を求める。

【土屋委員】

意見に対する質問ということではないかもしれない。

「道の駅」というキーワードが出てくるが、例えば、地域協議会に「造ってほしい」といった意見が多く出てきて、それを願った場合、一体何が、どう展開していくのか。どのような感じなのか。

【村田会長】

おそらく、意見書のようなかたちでの提案になると思うが、事務局より補足等あるか。

【難波主任】

村田会長の発言にあったように、意見書を通して市に提言していただくことが一つ、あとは「地域活性化の方向性」の中に入れたあかつきには、市の政策の参考にさせていただく。あとは、委員と市との情報の共有ということになるため、またつながっていくものと思っている。

【土屋委員】

例えば、どこかの地域協議会の中で、「道の駅の実現化に向けて」の意見書をどう思うのか提案をした時に、委員が皆、賛成した場合には、出すと理解すれば良いのか。

【村田会長】

金谷区の委員の意見で、そのような取りまとめができた際には、そのようになっていくと思う。

- ・他に質疑を求めるがなし。

次に、前回の会議で質問のあった、他区の地域協議会が作成した「地域活性化の方向性」が、地域協議会のみで作成されたものなのか、それとも地域団体との意見交換を経て完成したものなのか、事務局で確認をしたため、報告願う。

【難波主任】

- ・参考資料により説明

【村田会長】

- ・事務局の説明に質疑を求めるがなし。

高宮委員から金谷区の各種団体がたくさんあるので、そういった団体との意見交換をした方ほうが良いといった意見があったかと思う。

今ほど事務局より、板倉区と名立区はそのような方向で取り決めたとあった。頸城区と牧区は地域協議会限りでまとめたとあり、分かれている。

地域協議会のみ、各種団体と内容を深める、といった考えがあるかと思う。

高宮委員の発言にあったように、各種団体を巻き込んで、金谷区全体の地域活性化の方向を取組んでいったほうが良いということでどうか。

「今年度中」と最初に言われているので、まだ1月、2月とある。ただ、方向性として地域協議会のみで行うのか、地域の各種団体などを巻き込んで深めていくのか、いろいろな考えがあると思う。

石川委員、何か意見はあるか。

【石川委員】

板倉区や名立区は、もともと独立したところであり、いろいろな団体がそのまま

来ている。

福祉協議会だったか、名立区にはこれだけのいろいろな団体があるのだと思った。金谷区にも老人クラブはもちろんあるが。

金谷区は、名立区のように森林組合、漁業共同組合、商工会といった団体と対峙できるような状況ではないような感じがする。

そのため、私は、「各種団体」というものに対しては一步下がってしまう。

【神崎委員】

先ほど、土屋委員から「道の駅を造りたい」となった場合、どうするのか、との質問があり、市に意見書を出すのであろう、との流れであったと思うが、今、私たちが話し合っていることはそういうことではないと思っている。

市に意見書を出すということではなく、他の委員も資料No.1の意見の中に書かれていたと思うが、今、話題となっているので例としてあげると、例えば「道の駅を造る」という方向性になったとしたら、市に「お願いします」と言うのではなく、自分たちが造るという意気込みで、この「地域活性化の方向性」を決めなければいけないと思う。

その際、地域協議会だけでは、地域協議会で道の駅を造るように動くことはできない。

そう考えると、今の段階ではないかもしれないが、やはり、どこかの段階で必ず、実際に活動しているところと話し合いを持たなければならないと私は思う。

それがどの段階かという、私もよく分からない。だが、「地域活性化の方向性」を決めてから、団体の人たちに「決まったからお願いします」ということは、あまりにも無責任な気がする。そのため、やはり決める段階でいろいろな団体に入っただいて、その団体の人たちが「やりたい」という意識があることを集約することが、地域協議会の役目なのではないかと、私は考える。

【高橋敏光委員】

道の駅の話が出ており「道の駅」といっても、あちこちを見ると規模はかなり大きい。金谷地区で何か特産物があり、出荷、集荷するといっても、今は農家の人も中途半端、農業も中途半端、米も中途半端である。

金谷地区全体を眺めると、田んぼの量も畑の量も少ない。これは農家も御存知だが、例えば、南のほうの田んぼでは、毎年青田川の水を周りの人たちと取り合いをしている。

あの場所にため池で大きな川を作って、青田川というものはもともと、雨が降ると大水が出てきて、晴れるとパッとなくなる川である。そこを作ってやるように申請しますかと言ったら、そんなことの心配はいらない、もう10年も経てば誰も田んぼをやらなくなるからと。それを今から計画してできても仕方がないということで止めてしまった。

それから、規模が大きいけど、先ほども話したとおり、公民館の前やヨーデル金谷の前で販売するくらいの集荷量はできると思うが、道の駅のような大きなところに集荷するといった場合、この金谷地区に何の特産物があるのか。ないと思う。品物が集まりさえすれば売れると思う。だが、なくて売れないということが多い。金谷区では無理だろうと思う。

そして、地域の団体と話をする、団体が行っている行事に協力する。

例えば、身近な話をすると南葉高原キャンプ場での体験教室に地域協議会委員は何人来たか。全然、協力が無い。数人の委員だけが参加した。地域協議会の中だけでもまとまっていけないのに、外に出してもできないと思う。

昨年の暮れに地域の歴史、文化が「たくさんある」という話ばかりしていて、実際はどこに何があるのか見たことがない、書物では見ているが現物は見ておらず、春になったら歴史観光でもやってはどうか、といった話が地域協議会で流れている。

実際、「やるか」と言ったが、何も話は出てこず、私一人ががんばっても仕方がないと思い、口を出さなかった。

例えば、この地域協議会自体の中で何か催し物をやるか、と言っても「誰も協力者がいない」では何にもならない。先に地域協議会の団結力を作っていかなければならない。

地域の宝、歴史、文化を少し勉強していきたい。勉強をしてから次の段階になるような気がする。何も知らずに「金谷山に宝物がたくさんある」と言っても、具体的なことは誰も知らない。そのような状態でやるといっても無理である。

一度、地域のお宝を見に、来年の春、良い日和になった頃に皆で現地へ行って、勉強してはどうかと思っている。

【村田会長】

本日いただいた意見を、次の会議ではさらに深めて、最終的には「地域活性化の方向性」を見出していきたいと考えている。

外部の団体と打合せをすることも良いと思う。また、地域協議会の中で、さらに意見を深めて取り組んでいく方法もあると思う。

本日いただいた意見をもとに、次の会議につなげたいと思う。次回の会議では、委員間でグループワークを行うことを見込んでいる。

なお、12月は休会ということもあるため、他の委員のアイデアも含めて、あらかじめ検討等していただきたいと思う。

以上で次第4 議題（1）「金谷区の地域活性化について」を終了する。

— 次第5 事務連絡 —

【村田会長】

次に次第5「事務連絡」について、事務局に説明を求める。

【滝澤センター長】

・次回協議会：令和5年1月25日（水）午後6時から 福祉交流プラザ

・次々回協議会：令和5年2月22日（水）午後6時から 福祉交流プラザ

※12月は休会

・当日配布資料：頸城区、板倉区地域協議会の「地域活性化の方向性」

金谷地区公民館新設工事設計業務委託建設者選定について

清里区、諏訪区地域協議会の意見書

男女共同参画推進センター 講座チラシ

地域教育往来 第58号

【村田会長】

・会議の閉会を宣言

1 0 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 南部まちづくりセンター

TEL : 0 2 5 - 5 2 2 - 8 8 3 1 (直通)

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

1 1 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。